

探究的な学習における 課題設定と自己関与の関係性についての調査

Survey on the Relationship Between Research Topic Setting and Self-involvement in
Inquiry-based Learning

高澤良輔* 登本洋子** 溝上慎一***
Ryosuke Takazawa* Yoko Noborimoto** Shinichi Mizokami***

*芝浦工業大学柏中学高等学校 **東京学芸大学 ***桐蔭横浜大学
* Shibaura Institute of Technology Kashiwa Junior & Senior High School
** Tokyo Gakugei University ***Toin University of Yokohama

＜あらまし＞ 本研究は、高等学校の探究的な学習における課題設定への影響因子に着目し、それらが課題に対する自己関与とどのように関係しているかを調査したものである。その結果、「日常生活で感じる疑問」「将来取り組みたい学問・仕事」の2つの影響因子において、他の因子よりも自己関与との関わりを強く持っていることが明らかになった。

＜キーワード＞ 探究的な学習、課題の設定、自己の在り方生き方

1. はじめに

高等学校学習指導要領の解説（文部科学省 2018）では、「総合的な探究の時間」において重要なのは「自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し、解決していくような学び」であり、その探究プロセス（①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現）の中でも「とりわけ『課題の設定』を丁寧に指導することを心がけたい」と述べられている。

一方で、高校生・高校教員を対象とした調査では、「最も不安を感じている探究の過程」として、教員・生徒の両者が「課題の設定」を挙げていることも報告されており（荒井・清水 2024）、生徒自身が自分の「在り方生き方」や興味・関心にあわせた課題を設定すること、そしてその課題を探究的な学習にとって適切な質に整えていくことに現場は困難を感じているようである（上山 2024）。こうした現状を鑑みると、「課題の設定」に関する調査・研究は今後更に必要となるだろう。

よって本研究では、課題の設定への影響因子と、課題への自己関与との関連を明らかにすることで、探究的な学習の指導・評価を充実させることを目的とする。

2. 方法

2.1. 対象者と手続き

対象者は、スーパーサイエンスハイスクール指定校に在籍中の高校2年生 271 名（男性

160 名、女性 103 名、無回答 8 名）であった。

調査は、2024 年 2 月下旬に Google フォームを用いて行った。

2.2. 調査項目

探究的な学習の状況 「探究的な学習に積極的に取り組んできた」、「探究的な学習に取り組んできたことが、教科等の学習に影響を及ぼしている」のそれぞれに対して「よくあてはまる」～「まったくあてはまらない」の 4 件法で回答を求めた。

テーマ分野 探究的な学習で設定しているテーマに関して、自分が取り組んでいるものにもっとも近い分野を「人文科学」「社会科学」「自然科学」「その他」から選択させた。

課題設定への影響 探究活動のテーマ設定に影響する要因として、「日常生活で感じる疑問」、「将来取り組みたい学問・仕事」、「地域・社会への関心」、「自然・生命への関心」、「教科等の学習内容」の 5 つを提示し、それぞれの項目がどの程度影響しているのかを「とても影響を及ぼしている」～「まったく影響を及ぼしていない」の 6 件法で尋ねた。

課題への自己関与 「あなたのテーマはどのくらい人（教師や他の生徒など）から与えられたものですか」として、「自分のテーマである（10 点）」～「人から与えられたテーマである（1 点）」の 10 段階で評定させた。得点は分析の過程において 5 段階へと変換した。

なお、他の項目としてパーソナリティ特性や学習態度に関するものも設定したが、本稿の

目的に合致しないことから報告しない。

3. 結果と考察

課題への自己関与をその得点で5群に分類し、各項目の平均値および標準偏差を表1に示した。また、図1には自己関与得点ごとに各影響因子の平均値を表した。ここから「日常生活で感じる疑問」「将来取り組みたい学問・仕事」の2項目において各群の違いが強くみられ、これら2つの因子が他の影響因子（「地域・社会への関心」「自然・生命への関心」「教科等の学習内容」とは異なるかたちで自己関与との関わりを持っていることが明らかになった。梶田（1989）は、個体が環境へと積極的に働きかける「適応」を、環境に対する外面的な適応行動と内面世界の実感・納得・本音に基づいた適応行動といった2つの視点で捉えている。生徒が課題へと自己関与していく諸相もこうした適応の概念を援用して検討していきたい。

4. まとめ

「課題の設定」において、生徒自身の日常生活や将来とのつながりを意識することが、課題に対しての自己関与に影響していること

がわかった。今後も継続的な調査・分析を通して、探究的な学習の充実に貢献していきたい。

付記

本研究は高澤ほか（2024）で得たデータに対して追加分析を行ったものである。

参考文献

文部科学省（2018）高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説
荒井英治郎，清水優菜（2024）探究学習に対する不安・困難さの実態——生徒・教員対象の意識調査から—— 探究学習研究会(編)「探究学習」とはいうけれど学びの「今」に向き合う．晃洋書房 pp.34-50
梶田叡一（1989）内面性の人間教育を——真の自立を育む．金子書房
上山晋平（2024）高校教師のための「探究学習」ガイドブック．明治図書
高澤良輔，登本洋子，溝上慎一（2024）スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校における探究的な学習の実態調査．日本教育工学会研究報告集，JSET2024・2（印刷中）

表 1 自己関与得点ごとにみる各項目

	全体 (n=271)		自己関与 1 点 (n=16)		自己関与 2 点 (n=32)		自己関与 3 点 (n=31)		自己関与 4 点 (n=83)		自己関与 5 点 (n=109)	
	M	(SD)	M ₁	(SD)	M ₂	(SD)	M ₃	(SD)	M ₄	(SD)	M ₅	(SD)
探究 積極性	3.21	(0.78)	2.75	(1.00)	3.09	(0.86)	3.10	(0.75)	3.13	(0.66)	3.40	(0.77)
探究 教科学習への影響	2.59	(0.88)	2.00	(0.89)	2.69	(0.90)	2.48	(0.85)	2.47	(0.72)	2.77	(0.94)
日常生活で感じる疑問	4.17	(1.45)	2.56	(1.55)	3.56	(1.44)	3.74	(1.15)	4.33	(1.29)	4.60	(1.40)
将来取り組みたい学問・仕事	3.62	(1.58)	2.81	(1.76)	3.22	(1.41)	3.39	(1.41)	3.46	(1.52)	4.06	(1.61)
地域・社会への関心	3.56	(1.61)	2.13	(1.54)	3.53	(1.46)	3.42	(1.54)	3.78	(1.44)	3.65	(1.73)
自然・生命への関心	3.70	(1.67)	3.06	(1.69)	3.75	(1.70)	3.77	(1.45)	3.65	(1.69)	3.81	(1.71)
教科等の学習内容	3.37	(1.51)	2.00	(1.32)	3.41	(1.24)	3.45	(1.34)	3.46	(1.50)	3.48	(1.60)

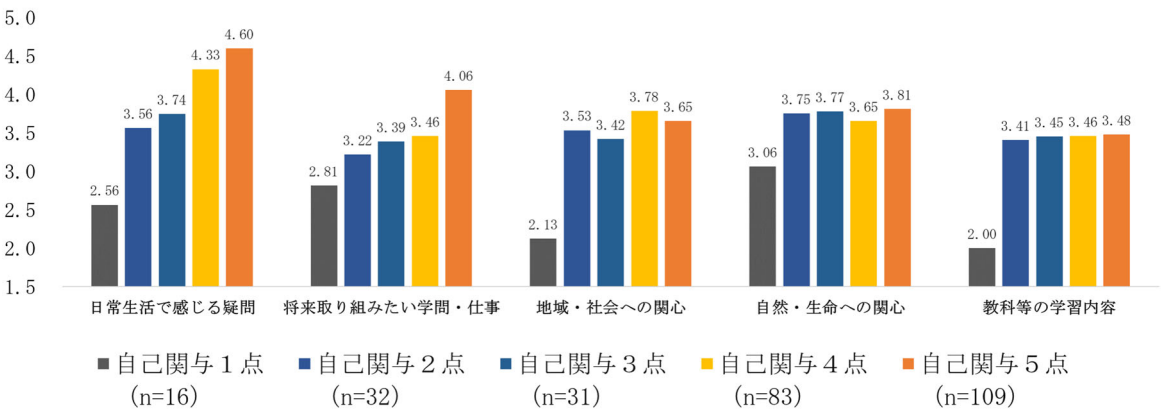


図 1 自己関与得点ごとにみる各影響因子の平均値